

令和5年度
学校自己評価報告書

新潟医療福祉カレッジ

令和6年4月26日

学校自己評価 評価項目

1. 教育理念・目標・人材育成像等
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果

介護福祉科

介護福祉士基礎学科

医療秘書科

社会福祉科、社会福祉専攻科

福祉心理科、福祉心理専攻科

オンライン通信科、オンライン通信専攻科

5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の受け入れ募集
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

1. 教育理念・目標・人材育成像等

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
学校の理念・目的のもと、特色ある職業教育が行われているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた人材育成の方針が定められているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色などが、学生・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・本校は、高齢化社会の福祉・医療に貢献できる介護福祉士の養成、および専門職業人として必要な専門的知識・技術及び態度を有する有為な人材を育成することを目的としており、これを学則で規定している。教育理念として、「目標に向かって継続的に努力する精神力と学校生活・学校行事を通じて社会性、積極性、協調性を身につけ、自らの行動に責任のとれる誠実な人材を養成する」ことを掲げており、学生や保護者にはこれを校訓及び人材育成像として示している。また、建学の精神で「豊かな教養を身につけた幅広い思考のできる人材の育成」を掲げ、資格や技術を持つことと同時に、社会的常識と基本マナーを備えた職業人の育成を口指すことを教育方針としており、これを学生の手引きに明記し、学生や保護者に示している。
- ・学校のテーマを「学校へ行くことが楽しくなる学校」とし、学生が毎日楽しく学校へ来れるように学生対応を行っている。教員間においても色々な価値が存在していたが、学校としての目指すべき方針を示すことで一丸となって取り組めるようになっていく。
- ・各職業に求められる人材を育てるべく、学科ごとに人材育成像（卒業生像）を設定するとともに教育方針を掲げ、指導にあたっている。切実な介護人材不足に対しては、外国人留学生の介護福祉士も養成することにより、そのニーズに応えている。

(3) 今後の課題等

- ・特になし。学科ごとの人材育成像はデュプロマポリシーとして公開しているが、今後時代も大きく変わっていくことから、定期的に見直しをしていく必要がある。

2. 学校運営

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・年度開始前に運営方針および事業計画を策定し、理事会にて報告、承認を得たうえで学校の運営を行っている。
- ・学内組織として学校運営会議などが学則に規定されており、この規定に基づき適切に学校を運営している。また、年度初めに校務分掌を作成し役割等を明確にしており、意思決定も含め有効に機能している。各学科においても年度当初に今年度の計画を立案し、計画が予定通りに実行できているかを学校運営会議で確認している。
- ・人事、給与に関しては、法人の就業規則や各種規定に定められており、法人として、定期的に見直しを行う組織体制も整っている。
- ・法人による財務等の組織整備、学校長による学校予算の作成と管理、学校運営会議等による意思決定の仕組み等が整備されている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学園だより、学校案内パンフレットなどにより積極的に行っている。
- ・学内においても Google のシステムを導入し、一元管理と業務の効率化を行っている。

(3) 今後の課題等

- ・特になし

3. 教育活動

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
育成人材像や業界のニーズを踏まえた、学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・教育理念や各学科の育成人材像、業界のニーズ等を踏まえ、カリキュラムの見直しや到達目標の設定を行い、その習得に必要な学習時間を確保している。
- ・国家資格を始めとした高度な資格や検定の合格を目指しつつ、実践力を身につけるための演習や実技、実習、企業等と連携した授業などを効果的に行えるよう、工夫している。
- ・成績評価、単位認定、進級や卒業判定の基準等は、学則や学生の手引きに明記されており、その判定方法も学内で明確になっている。
- ・授業終了時に授業アンケートを実施し、半期に1度満足度調査を行っている。
- ・全教職員に対して年に3回以上のスキルアップの機会を受けることをルール化した。
- ・各分野の専任教員に加え、実習先や就職先など業界関係者の方を特別講師や非常勤講師として招き、最新の知識や実践的な技能を身に付けるよう取り組んでいる。

(3) 今後の課題等

- ・関連分野企業等のアドバイスをもらいながらカリキュラムの見直しが不十分などところがある。企業や施設との連携や実際訪問する実践授業も増やしながらカリキュラムの参考にしているが、就職してすぐに即戦力となる教育まではいっていない。

4. 学修成果（介護福祉科）

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

(2) 現状

- ・就職に向けたガイダンスや研修行事、授業などを通して、就職課と連携しながら、学生の希望に応じた就職支援に取り組んでおり、就職率 100%を達成することができた。
- ・介護福祉士国家試験は個別支援の成果もあり、100%合格することができた。
- ・退学者は1人である。入学は本人の意志であったが、介護福祉科での学びが進むに連れて本人の職業の選択に過ちがあったと気づき運送業に方向転換する。
- ・連携施設授業の中で各施設のからの介護実践報告会の中で、卒業生による発表もあった。発表会の中で卒業生と学生達との交流の場となり、実践発表会を通して、学生達が将来像を考えるきっかけになった。学生たちにとって非常に有益であり、卒業生たちにとっても、自分たちの経験や知見を共有することができる非常に良い機会となった。
- ・在校中に、自己啓発を行う必要性や介護の最新技術、講習会やセミナーの存在を周知し、キャリア教育につなげていく必要がある。

(3) 今後の課題等

- ・介護職は、高齢化社会の進展に伴い、必要とされている職業である。介護職のやりがいや魅力を前面に出し、人の役に立ちたいと思っている方を一人でも多く、安心して働けるように支援できるような教育を目指していきたい。

4. 学修成果（介護福祉士基礎学科）

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・福祉施設でアルバイトをしている学生も多くいるため、キャリア教育や働くことの意識などは高まっている。また、介護に対する認識や理解度も高い。
- ・介護福祉士国家試験は、前年度に続き10名を超える合格者を出すことができた。学校として、留学生に対する対策授業の方法を確立しつつあるが、合格率のさらなる向上を目指していきたい。
- ・90名を超える留学生が在籍しているが、年間を通して1人も退学者はおらず、失踪者もいなかった。様々な背景や事情を抱えた学生がいるため、今後も、学生1人1人と真剣に向き合い、適切なフォローをしていきたい。
- ・卒業後も新人研修のフォロー研修を開催し、卒業生のフォローをすると同時に授業内容にも改善を行っている。

(3) 今後の課題等

- ・留学生が多くいるため、学習面だけではなく、日本の風習や文化についても教育する必要がある。また、特に入学時は日本語レベルが低いのでサポートが必要である。
- ・介護の仕事は留学生にとってイメージしにくい仕事であるため、入学前に介護の仕事はどのような内容なのかしっかりと伝えていくことが大切である。
- ・卒業生や他学年、他学科との交流がコロナ等のリスクもあり自粛していたが、今後は徐々に交流を深め、留学生にも多様な価値を提供していきたい。

4. 学修成果（医療秘書科）

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	2
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・学生の希望に合った職種や勤務地を斡旋することができたため、卒業式前に就職内定率96.6%を達成した。未内定の学生は、医療分野のみならず、一般企業も視野に入れ、現在も引き続き就職活動をしている。
就職活動に苦戦していた学生に対してはハローワークの適正診断や、担当者との面接練習なども取り入れ、内定に結び付いた学生も若干名いた。
- ・医療事務管理士、調剤事務管理士、介護事務管理士の取得率は100%である。
診療報酬請求事務能力認定試験は、全国合格率48.4%に対し、90.3%で、学科目標値の90%以上は達することができた。
- ・2年生は休退学者が0名。1年生は退学者1名。その他、1年生の1名が、学校とは無関係のところで人間関係のトラブルに巻き込まれ、体調不良と精神疾患が重なり、通学が困難となったため、オンライン通信科へ転科することになった。
- ・在校生に関しては、10月以降、インターンシップ先のヒアリングを通じて、社会的活動や評価を概ね把握できている。
卒業生に関しては、4月に実施している卒業生による就職ガイダンスの際に、実際の現場の声や、イフでの教育について話す場を設け、改善を図っている。

(3) 今後の課題等

- ・医療事務系の検定協会も方向性が変わり、検定が廃止されたり、試験概要が変わったりしてきている。それに合わせて授業も、より現場に直結するような内容とし、即戦力として働けるよう改善を図る。
- ・休退学者を0名にするために、定期的な1on1で学生との関係性を築く。1年生は早い段階で心境の変化等、些細なことも見落とさないよう、細心の注意を払う。2年生はインターン中に辞退することがないように、月1回の1on1は必須とする。

4. 学修成果（社会福祉科、社会福祉専攻科）

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・クラス担任と就職課が連携し、学生の希望に応じた就職に向け取り組んでおり、当該年度を含めた直近3年間の就職率は100%である。
- ・社会福祉士国家試験の現役合格に向け、受験対策指導を体系立てて実施している。当該年度の合格率は100.0%であり、全国平均58.1%を超える好成績を残すことができた。
- ・クラス担任を中心に、学生が教員と話しやすい環境をつくっており、学生の抱えている課題や心の悩みに応じた支援を行っている。当該年度の延べ人数に対する退学率は3.1%である。
- ・現場実習の巡回指導などで施設の指導者から在校生の実習の様子や卒業生の働きぶりを聞く機会を得ている。
- ・卒業生とは在校時の担任を中心に良好な関係性を維持し、情報交換をしている。

(3) 今後の課題等

- ・卒業生の活動についての情報収集が、在校時の担任に依存している。また、卒業生のキャリア形成に関わるなどの活動が十分とはいえない。そのため、卒業後は卒業生と学科との関係性を構築し、情報交換を行ったり、卒業生の相談に応じるなど、学科としての体制づくりを進めているところである。

4. 学修成果（福祉心理専攻科）

（1）自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

（2）現状

- ・毎年、卒業式までの就職内定を目指しているが、今年度は卒業式時点で2名の未内定者が発生した。しかし、1名は卒業式直後に内定、残りの1名も3月末に就職が決まり、求職者全員の就職内定を決めることができた。学生が主体的に就職活動を行うよう働きかけていたが、学生もその期待に応えてくれたものとする。

（3）今後の課題等

- ・福祉心理科・福祉心理専攻科は今年度で閉科となった。当学科開設から達成できていた「当校4年在学での全員大学卒業」も達成することができた。今後はオンライン通信専攻科・心理コースで学生のサポートを行うことになるが、残った心理系教員で学生の学びの助けになるようが学生を助けていきたい。

4. 学修成果（オンライン通信科、オンライン通信専攻科）

（1）自己評価結果

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	—
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	—
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	—

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

（2）現状

- ・今年度新設学科であり、県内に前例のない、専門士を取得できる通信制課程として開設した。学業の継続が困難になった学生を受け入れられるよう、校内の他学科で進級困難な学生の受け入れも行った。
- ・通信制大学等にありがちな、入学したが科目履修が進まないということにならないように、週1回を基準に学生個々と教員が対面あるいはオンラインで1on1を実施した。学生の科目履修へのモチベーションの維持と計画的な学習の継続に効果的であった。
- ・在校生に占める退学率は33.3%に達した。学科開設の狙いとして、通学制課程の専門学校では学業の継続が困難な事情を抱えた学生の受け入れ先となることを目指したが、困難状況の改善に至らないケースが生じた。

（3）今後の課題等

- ・学科の特性上、今後もさまざまな課題を抱えた学生が入学することが予想される。学生個々の課題やニーズに応えられるよう、より個別化したアプローチを展開していきたい。退学率はゼロを目指したい。
- ・他校他学科で学業の継続が困難になった学生の受け入れを広げたい。そのために、転入及び編入の制度化を進めたい。また、10月入学・9月卒業を導入し、編入を希望する学生の受け入れを図りたい。

5. 学生支援

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・就職担当とクラス担任が連携し、キャリア教育を踏まえた授業や就職支援活動を計画的に行っている。卒業生が過去に受験した企業等の情報の閲覧や面接練習・面接指導については、登校時のみならず在宅時でもオンラインで閲覧や申請が可能な状態であり、就職活動を行う学生にとって必要な支援体制が整っている。
- ・全学科、年間を通じて学生とクラス担任が定期的に面談をする機会を設けたことにより、学生と教員の関係性向上や日常的な相談事に耳を傾ける体制ができた。学生の課題を担任だけで解決するのではなく、内容によっては学科全体で共有し、チームとして対応する体制を整えている。
- ・ほぼ全ての学生を対象に学校独自の学費支援制度を設けて、経済的支援を行った。また、必要に応じて学費等の分納や延納の相談にも応じた。
- ・ボランティア活動の斡旋や、サークル活動費の補助などにより、課外活動を行う学生を支援している。
- ・学校や学科の方針をご理解いただくとともに、学校生活や学生の活動の様子などを共有する機会として新入生の保護者を対象とした個別面談を実施した。また、課題や悩み等を抱えている学生については、随時担任より保護者へ連絡をとり、協力を得ながら学生を支援していた。
- ・社会人教育のニーズにも対応できる学科が新設されたことで、リカレント教育を希望する社会人の教育を支援しやすい環境が整った。

(3) 今後の課題等

- ・卒業生に限定した支援については、個別支援にとどまっている。全体として支援ができる方法については、まだまだ検討が必要。

6. 教育環境

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップの場等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・介護実習室、入浴実習室、家政学実習室、医療事務実習室、パソコン実習室、図書室、多目的演習室など、教育を行う上で十分な施設、設備を備えており、オンライン授業を行うための高速ネットワーク環境も整っている。
- ・学生の出身地域や希望も考慮し、多くの福祉施設や病院などにご協力いただきながら、連携してインターンシップや実習等を行っている。
- ・各種防災設備を設置するとともに、避難訓練・消火訓練を実施し、教職員には防災マニュアルにて、災害時の行動指針を示している。また、職員にはAEDの研修を行い、いざというときに備えている。

(3) 今後の課題等

特になし

7. 学生の受け入れ・募集

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
学生募集活動は適切に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・学校の理念や教育を知ってもらうための学生募集活動として、パンフレット、募集要項を毎年作成し、入学希望者への配布、説明を行っている。また県内外の高校等訪問により高校教員に対しても理解を深めてもらっている。さらに、毎月オープンキャンパスを開催しており、学校・学科説明・体験実習・校舎見学・募集要項説明等を実施している。また、LINEをコミュニケーションツールとして活用し、来校が難しい場合においても疑問や不安についての問合せができる環境を整え、理念や教育を理解してもらったうえで、入学を決めてもらっている。
- ・高校生や社会のニーズが変化しているなかで通信制学科を設置し、社会のニーズに応えている。
- ・教育成果である各種資格検定取得状況や進路状況は、パンフレットや Web サイトで公開するとともに、オープンキャンパスや保護者説明会、高校訪問時の説明等で正確に伝えている。
- ・学納金は物価の変動状況と本校の収支計画を勘案し、理事会で決定している。

(3) 今後の課題等

- ・これからの社会に必要な福祉分野について、全体の希望者数が少ないため福祉希望者の増加が課題である。
- ・オンライン通信科を設置し、多様な学び方や高等教育の進学を諦めていた方に対してアプローチを進めていきたいが、認知度が低いと社会ニーズに応えられていない。

8. 財務

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適切に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・健全な財務状況となるよう中長期の収支計画を立てており、適切に執行されている。
- ・予算、収支計画は、事業計画に基づき作成された後、理事会及び評議員会の承認を得て予算の執行及び運用がなされている。また、月次単位で予算執行状況の確認を行っている。
- ・法人として、公認会計士による会計監査が1年を通して適切に実施されている。
- ・財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書等の財務情報について、ホームページにて公開し、閲覧できるようにしている。

(3) 今後の課題

- ・安定的な入学生の確保に力を入れ、健全な財政基盤の継続に取り組んでいく。18歳人口はこの先も減少傾向が続くため、幅広く学びの機会を創出していく必要がある。

9. 法令等の遵守

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に対し、その保護のための対策がとれているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・学校教育法などに定められている法令、設置基準の遵守について適切に行っている。また、申請や届出が必要な事項に関しては、遅延なく国や県など所轄官庁に提出している。
- ・個人情報の管理については、全教職員に周知徹底し厳格に行っており、学生などの個人情報を利用する場合には使用目的を明確に伝え、承諾を得たうえで取り扱っている。
- ・自己評価は毎年度行なっているおり、その結果をホームページで公開している。

(3) 今後の課題等

- ・特に問題無し。適切な対応を継続していく。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己評価結果

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(2) 現状

- ・中学校の「総合的な学習の時間」等を活用した上級学校訪問を積極的に受け入れ、キャリア教育や職業観の育成等に協力している。
- ・学校の教育資源の一つでもある学生が、授業等で企業や施設の課題やニーズを探り解決法を模索、提案するなど、地域社会を活性化させることに寄与していた。
- ・引き続き、新潟県立新潟テクノスクールより、公共職業訓練を受託した。

(3) 今後の課題等

- ・ボランティアは依頼があったものを担当者を決めて全体周知を行っているが、コロナ等の関係で依頼が減少している。また奨励している状況でもないので、奨励できるよう学内の体制を整える必要がある。
- ・地域とのかかわりもコロナで疎遠になってしまったところがある。来年度はこども食堂を開催する計画もあるので、地域とのかかわりを徐々に増やしていく必要がある。